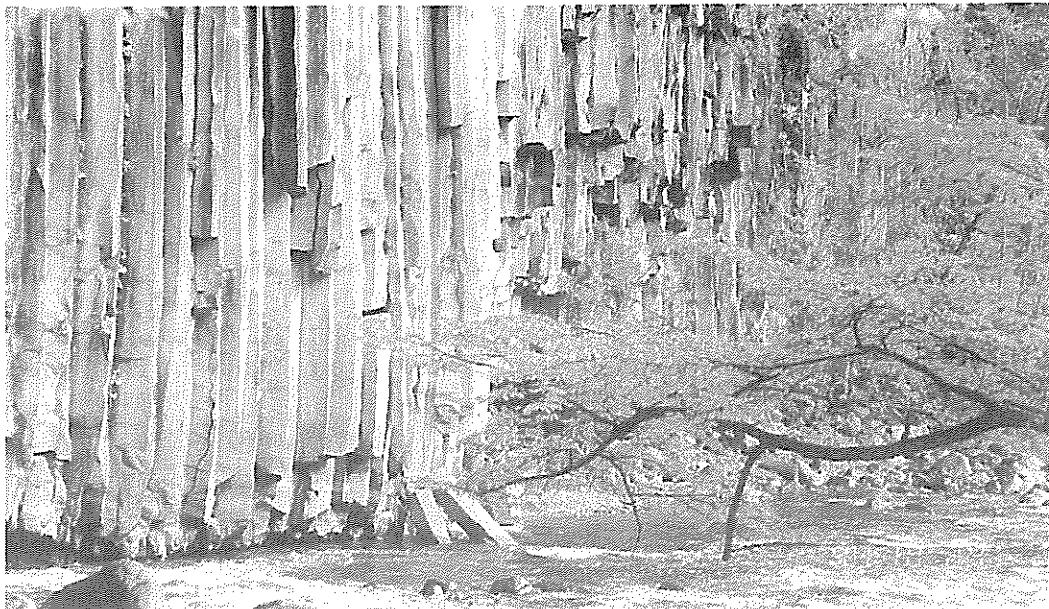


岩手郡医報

平成6年9月 No46
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 雉石町高橋孝先生



葛根田の大岩屋（雉石町）

雉石町内から雉石町網張国民休暇村への途中、玄武温泉からわずか上流には、国の天然記念物として指定（昭和18年2月19日）されている葛根田の大岩屋といわれる玄武洞の巨大な岩石像がある。雉石川の支流、葛根田川（流程26キロの清流）にとって山懐をかき分けて流れる渓谷美と共に、自慢の一つといわれる造形美は、溶岩（安山岩）が作り出した柱状節理の水蝕であり、断崖は幅160m、高さ70mにも及ぶ。切り立った絶壁に垂直に走る無数の六角柱、その造形美の何と見事なことか。また上部に行くに従って節理は横走性になり、離れて見ていると松カサの様であり、地元の人達は松カサ岩とも呼んでいる。

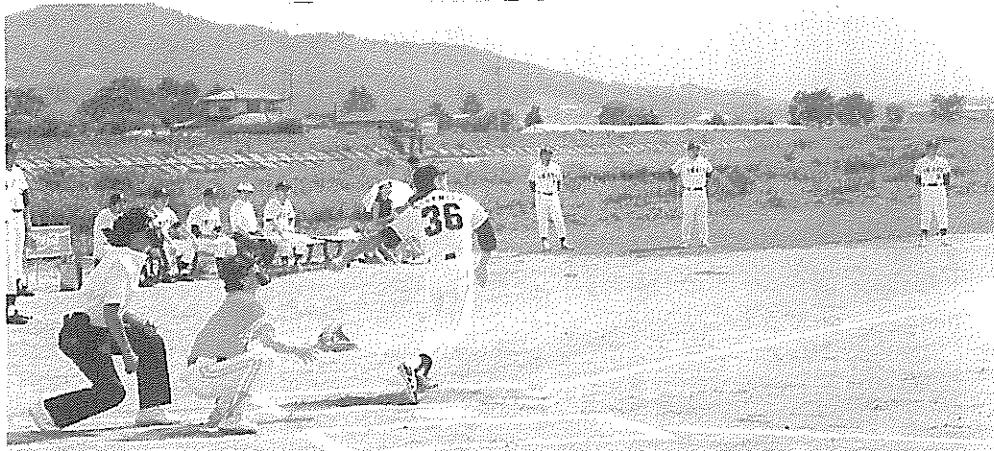
(M. S記)

目 次

葛根田の大岩屋	1	第2回岩手郡医師会ゴルフ同好会コンペ	7
第46回県医師会親睦野球大会	2～3	おらほの先生 岩手町 佐渡医院の巻	8
県医師会野球大会観戦記 三善悟	3～4	隨想「百日紅」	9
第28回岩手県医師会親睦ゴルフ大会奮戦記		岩手郡医師会役員会	10
坂井博毅	5～6	編集後記	10
今日の話題から	6		

第46回 県医師会親睦野球大会

日時 平成6年8月28日(日)
 場所 遠野市内
 担当 遠野市医師会



四番土谷選手の左翼越えの大飛球を打った瞬間
 (撮影 佐藤郁郎先生)

第46回を数える県医師会野球大会は、今年は遠野市医師会の担当で、市内8会場に分かれて第1回戦が行われた。当医師会の一回戦は早瀬川河川敷球場で、今回初めてA、Bチームに分かれた北上医師会Bチームと対戦し、徐々に試合慣れしてきた4回表に一挙14点を加える猛攻で、19対5と圧勝した。二回戦は同球場で強豪の釜石医師会と対戦し、2対13で敗退した。この試合前半は相手投手に押さえられたが、3回裏代打攻撃にて一挙2点を挙げ零封を免れた。

今年も野球好きドクターの年に1回の大会県医師会親睦野球大会が8月28日(日)遠野市において開催された。大部分の岩手郡選手団は、前日遠野市内に宿泊し、翌日の秘策を練りながら大会に備えたが、当日参加の数人も含めて、朝早く現地に乗り込んだ。この日の朝、盛岡方面は雷が鳴り、雨が降り、このまま遠野も雨だったら中止だらうかと心配しながら国道396号線を南下していると、大迫町の手前付近からはすっかり晴れ上がり、今日の好天が予想された。主会場となった遠野市運動公園野球場において、朝の受付が始まり、各都市医師会選手団は開会式にのぞんだ。

本年6月プロ野球イースタンリーグ(西武対巨人戦)も行われた新装になった立派な野球場(両翼92m、中堅120m)のきれいに整った芝生のなか、地元遠野中学生のプラスバンド隊の奏でる行進曲に合わせてバックスクリーク前より行進して選手団は入場行進した。



国旗、会旗掲揚のあと、石川県医会長は「県内でも数少ない会員の遠野市医師会の御世話で、この46回大会を行うことは大変意義深く感謝に堪えません。1年1回の大会でもあり、例年ケガ人が出ることもしばしばですが、ここ数年出ていませんのでくれぐれもケガをせぬよう今日一日頑張ってください。」と挨拶され、そのあと大会会長地元遠野市医師会長(時田一雄先生)及び遠野市長(菊池正氏)などの挨拶があった。なかでも遠野市長さんは「本日ここ遠野で、東北マスターズロード

レース大会が行われているが、福祉関連の職員は皆さん野球大会の方に参加するように手配しました。」と非常に医師会に対して好意的な発言があった。

このあと選手を代表して遠野市医師会宮本耕佑先生が「県内野球好き医師がここ民話のある里遠野に集い……今日一日フェアプレー精神にのっとり正々堂々と“青春”することを誓います。」と宣誓し、永年選手表彰は当医師会所属選手では該当者なく、今回の最高出場者は40回の水沢医師会千葉政男先生であった。敬意を表する次第です。

時期開催地紫波郡医師会齊藤裕会長の「来年は8月27日(日)矢巾町を中心に予定していますので多数の参加を希望します。」と挨拶され、選手団は各試合場へと移動し、一回戦にのぞんだ。

懇親会場となった遠野市総合福祉センターは、最近新装なったばかりの「福祉、健康の里とおの」の拠点となる、木目の香りただよう会場であり、敗退したチームから順次一風呂（市内清養園にて）浴びたあと会場に到着し、今回の試合経過は会場入口付近に大きく張り出された組合せ表を見ながら、どこが勝

ち残ったいるかが分かるようになっている。一年に一回顔合せするような人もあるれば、数年振りに再会する人もあり、それぞれ思い思いの懇親の場となった。

また飲物も沢山用意され、遠野の名物、遠野ラーメン、寄せトーフ、熊の肉汁、寿司あり、季節料理など地元遠野市医師会の心づくしに感謝しながら、ゆっくりとくつろぎのときを味わった。例年この大会の優勝チームがどこかまだ解らぬまま現地を去る人が殆どである。好天に恵まれた今日一日のさわやかな汗とともに次回への活躍を期待しつつそれぞれ遠野を後にした。

(M. S記)



懇親会場でくつろぐ選手団

○ 県医師会野球大会観戦記 ○

三 善 悟

第46回岩手県医師会親睦野球大会が8月28日遠野市医師会担当で、遠野市で開催された。

我々は高橋会長宅前を前日の3:30pmすぎバスで出発し遠野へ向かった。高橋会長、佐藤(郁)、西島、上原、及川、高橋(克)、遠藤、久保谷、佐藤(一)の諸先生と小生の10名である。

何度も出場して感ずることは、持ち回りの間隔が10年以上経つので、道路整備が前回と全く違う事である。今度も快調なバス旅行で、要した時間も、1時間40分位で遠野に着いた。宿は町の真中、昭和25年創業とか。

階段の立派さ丈が印象に残った。

宿の前はお祭りなのか車も入れず、スピーカーがガンガン鳴っていた。

会長の友人(釜石在住、和田盛雄氏。高校時代の野球仲間…編集部注)、遠野市医師会

の時田会長、川上副会長が陣中見舞に宿に来られた。

時田会長の先導で駅前のカラオケに案内され、熱唱一刻。全員で時田先生推薦のラーメン屋でラーメンを食し、宿に帰る。翌朝、一名の宿酔もなく、宿を7:30amに出て会場へ。

昨年の民宿(大槌町浪板、さんずろ屋)が良かった故か、部屋、料理、サービス、全てが物足りなかった。

8:20am遠野市運動公園野球場で開会式。ラグビー場、サッカー場なども隣接した立派な会場であった。

遠野市長菊池正氏の祝辞、永年選手の表彰などセレモニー終了し、各球場へ散り試合開始。第一戦の相手は北上Bチームで岩手郡チームの先攻。

メンバーは

- | | |
|----------|--------------|
| ① 嶋 | (捕) |
| ② 高橋(克) | (二) |
| ③ 佐藤(一) | (投) (田山診療所) |
| ④ 土谷 | (三) |
| ⑤ 久保谷 | (遊) (鶴宿温泉病院) |
| ⑥ 遠藤 | (一) (滝沢村開業) |
| ⑦ 篠村(達) | (左) |
| ⑧ 及川 | (中) |
| ⑨ 佐々木(久) | (右) |

の布陣である。 () 内は新規加入

1回ウラ、3点とられベンチはやや心配したが、3回終わって佐藤(一)のホームランなどで5-5の同点。



今回も先頭打者として有効打を放つた嶋選手



満塁ホームランを打つて勇躍ホームインする佐藤一選手(右より二人目)

4回味方の打棒凄まじいの一語で、嶋の2塁打に始まり、6連打。敵のセンターの落球を挟み、3四球。又、高橋(克)のヒットから始まり、土谷のホームランを含め5連打。これで13点。まだノーアウトである。2アウト後、佐々木(久)のヒットで14点目。4回ウラは北上Bを三者凡退に抑え、先ず一勝目をあげた。

◆第1回戦

	1	2	3	4	計
岩手郡	0	5	0	14	19
北上B	3	1	1	0	5

球場は河川敷で、当日、東北マスターズロードレースマラソンとおの大会があり、川堤を1200余名の選手が白バイの先導で走るのが望

見された。

第2試合対釜石市医師会戦である。

岩手郡はメンバーを変えず、釜石の先攻。

1回表、釜石のトップ、ショートオーバーのヒット、2番三振、盗塁された後、3番サードゴロ、ファースト落球で1点。2アウト後、ツーベースヒットで2点目(これもショートの頭をフラフラ越えてレフト線へ切れた当たり)。四球、暴打、3遊間ヒットで又2点。計4点取られた。

1回ウラ、岩手郡トップの嶋、レフト左ヘッドヒット。1アウト後、3番、4番の大きなレフトフライ。2本共好捕され、0点。

段々暑さも厳しく、リズム掴めぬままツキもなく、2回以後、敵の猛攻に6点、3点と奪われ計13点。

3回ウラ代打攻勢、先ず佐藤(郁)。四球、すぐ盗塁、三善の二ゴロで三進。高橋(牧)サードの頭を越すヒットで生還し1点。鈴木のショートゴロエラーで高橋(牧)三塁へ、土谷のヒットで生還2点目を挙げた。

◆第2回戦

	1	2	3	計
釜石	4	6	3	13
岩手郡	0	0	2	2

善戦空しく敗れましたが、全員出場を果たし本当にご苦労様でした。

試合後、球場から可成り離れた入浴場に案内され入浴後、懇親会場に戻る。

一、二回戦で敗れたチームが所属チームの書いたテーブルで、話に花を咲かせている。

冷たいビールや遠野市医師会の奥様方の心尽くしのもてなしを受け、遠野を後にしました。

記録破りの猛暑の中、今年の大会は終わりましたが来年の紫波大会に又参加しましょう。



巧投した佐藤投手

第28回 岩手県医師会親睦ゴルフ大会奮戦記

とき：H 6. 9. 11(日)

ところ：栗駒ゴルフ倶楽部

坂井博毅



県医師会ゴルフ大会（於栗駒GC）における坂井博毅先生の華麗なフォーム

台風の余波が三陸海岸を通過し、夜半までは可なり激しい雨でした。風と雷雨が心配されましたが幸い快晴とはいかないまでも、まずまずの天気の中、第28回岩手県医師会親睦ゴルフ大会が全日本医師ゴルフ選手権岩手県予選を兼ねて、全県の各都市医師会から156名の精銳が初秋の栗駒ゴルフ倶楽部に集い、盛大に開催されました。我が岩手郡医師会からは佐藤郁郎先生、三善悟先生、嶋信先生、久保谷康夫先生、土谷正彦先生、坂井の6選手が参加し健闘しました。

岩手郡医師会からはグランドシニア、レディースの部には残念ながら今回は参加者はありませんでしたが、シニアの部で佐藤郁郎選手が南コース44、西コース51、グロス95、ネット73.4で堂々7位と健闘されました。残念ながら三善悟選手は日頃の実力が発揮されず26位でした。壯年の部では嶋

信選手は知らないコースながら安定した力を發揮し、東、南両コースとも45、45、グロス90で9位に入賞されました。坂井は今年度の経済動向よろしく高値安定で43、43、グロス86とメロメロでした。青年の部ではわが岩手郡のホープ久保谷康夫選手と土谷正彦選手が参加し、大いに健闘し、久保谷康夫選手が東コース46、南コース38、グロス84、ネット72で6位入賞、土谷正彦選手は東、南両コースとも40でグロス80、ネット74となり、18位でした。ちなみに、団体戦の優勝は一関市医師会で281、準優勝は盛岡市医師会283.8、3位は花巻市医師会で289.4でした。わが岩手郡医師会は参加選手の数が少ないのでネットによる団体戦では苦戦をしいられ、292.6と残念ながら3位以内の入賞は出来ませんでしたが、上位5人のグロスでは可なり良い成績でした。参加選

手のご健闘に感謝致しますとともに、来年度は二戸医師会、久慈医師会とともに岩手郡医師会がホスト医師会となりますのでより多くの会員の先生方の参加によって成功させていただくことを希望してやみません。尚来年度は二戸の千葉茂先生が会長となり軽米町の軽米ライベックスカントリークラブで開催され

ることになりました。

全日本医師ゴルフ選手権の代表は開業医は一関市の菅原康二選手（菅原整形外科医院）がグロス77で決り、勤務医の代表はプレイオフの結果、岩手労災病院の徳永三郎選手が代表となりました。11月2日の本大会でのご健闘を祈ります。

◆成績◆

順位	氏名	東	南	西	G	HD	NET
◇ (シニアの部)							
7	佐藤 郁郎		44	51	95	21.6	73.4
26	三善 悟		48	57	105	26.4	78.6
◇ (壮年の部)							
9	島信	45	45		90	16.8	73.2
19	坂井 博毅	43	43		86	10.8	75.2
◇ (青年の部)							
6	久保谷 康夫	46	38		84	12.0	72.0
18	土谷 正彦	40	40		80	6.0	74.0

今日の話題から

「有床診の役割は増大」

東北医師会連合会総会・学術大会が9月17日仙台市で開かれた。医政科学学会は医療機関の機能別体系化と診療報酬体系をとりあげ、日本医師会の坪井副会長・糸氏常任理事がそれぞれ講演を行い、意見交換をした。

講演で坪井副会長は医療機関の機能別体系化について、①従来の地域密着型の医療提供体制を主軸に構築②老人処遇の一本化のため施策展開が必要……との2点を改めて指摘。とくに①に関連しては「従来型の医療提供体制ですむならそれで構わない」とまで述べ、あくまで現在の提供体制を主軸にする考えを強調した。

焦点になった有床診療所の今後については、「決して悲観的ではなく、むしろ役割は重要になる」と述べ、有床診の役割は今後増すと強調した。今後も有床診の形態は存続すべきだと改めて主張するとともに、診療報酬でショートステイ機能を評価したことや老健施設病床を医療計画でカウントしないのは有床診療所の活性化、今後若い医師が地域に出ていくための処置だと述べた。また小規模入院施設について「まったく確定したもので

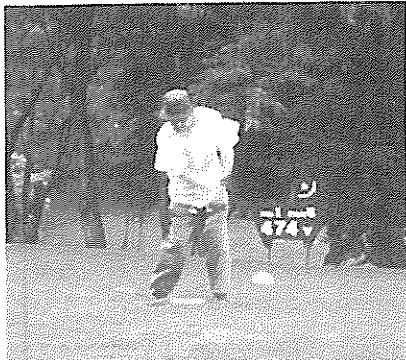
も火が消えたものでもない」と説明、議論の過程にあるとの認識を示した。特定機能病院については、「82病院よりも拡大されることはない」と宣言した。

糸氏常任理事も質疑で有床診に言及し、「かかりつけ医機能を発揮する場としても有床診の機能は無視できない」と強調した。老健施設の転用について質問されたのに対して、「医療をベースにした福祉ほど強いものはない。大都市でも老健施設整備が進まない中で一つの提案として大いに検討されるべきだ」と答え、前向き姿勢を見せた。

また糸氏常任理事は医薬品問題や医薬分業にも触れ、改めて薬剤の保険給付外しに反対姿勢を示すとともに、医療費に占める薬剤費の大きさに問題意識を表明し「結局は医薬品メーカーに（財源が）入るか、技術料（で医療機関）に入るのかということになる。ムダな薬剤は排除して医療資源を浮かす努力を考えなくてはならない」と述べ、薬剤費を技術料に振り返るためにもムダな薬剤使用は排除すべきだと訴えた。

第2回岩手郡医師会ゴルフ同好会コンペ

とき 平成6年9月15日
ところ 南部富士カントリークラブ



雨の中奮闘した高橋会長

た。今回の会員出席申込みは、前のときより2名多い15名の参加申込みがありましたが、当日は1名だけの欠席であった。

前夜来の雨もかなり多量に降ったようで、コースのフェアウエーのそこそこにも水たまりが出来ているのが見えた。スタートの頃には今にも降り出しそうな雲行きであったが、北上川コースより各組スタートし、最終組までは雨も降らず大丈夫であった。

今回幹事役であった八角先生は、職員の結婚式と重なり、朝の挨拶に出席しただけで早々に帰られた。

今年の酷暑にゴルフコースのフェアウエーの芝生も堪え切れず、各ホールかなり広い範囲で芝生が枯れて土が露出しており、最近再び芝の種を蒔いているようだった。

北上川コースを回っていてNo 4、5付近より

<成績>

順位	氏名	岩手山	北上川	GROSS	HDCP	NET
1	坂井 博 納	41	39	80	8.4	71.6 D.C.
2	嶋 信 信	46	44	90	18.0	72.0 N.P
3	久保谷 康 夫	40	40	80	4.8	75.2 D.C.(2)
4	土谷 正 彦	39	39	78	2.4	75.6 N.P B.G
5	吉島 一 夫	53	51	104	27.6	76.4 N.P
6	柄 内 秀 康	48	44	92	15.6	76.4 N.P D.C.
7	上田 靖 彦	55	52	107	30.0	77.0
8	佐藤 郁 邦	54	53	107	27.6	79.4
9	及川 忠 人	57	51	108	26.4	81.6
10	三善 康 悟	49	50	99	15.6	83.4
11	西島 康 矢	61	56	117	32.4	84.6
12	倉田 矩 明	57	54	111	25.2	85.8
13	瓜田 義 牧	59	64	123	36.0	87.0 B.B
14	高橋 之介	67	67	134	36.0	98.0 B.M
[参考]						
	石弘 八	47	44	91	13.2	77.8
	井上 宏	52	50	102	22.8	79.2
	永山 秀繁	56	51	107	27.6	79.4
	小瀬川	66	62	128	36.0	92.0



会長杯を手にする坂井先生（左）

おらほの先生

当院長の出身地は、熊本県の水俣市です。岩手医大脳神経外科医として勤務後、昭和54年11月に、34才の若さで、この岩手町に“佐渡医院”を開業いたしました。その頃は院長も若さも手伝ってか、ファイト満々で、スタッフにとっては厳しい先生で、毎日が緊張の日々でした。いかにも九州男児という感じで迫力があります。

九州生まれということもあってか、水泳が特技で、先生は水泳だったら誰にも負けないと、自信満々です。今もプールに通う日が多いほどです。本業を忘れなければ良いなあと思う今日この頃です。

それと自転車に乗ることもまれにあり、時々町内めぐりを自転車でと、しゃれこんで

岩手町 佐渡医院の巻

おります。年齢のわりには体力があり、先生自身まだ、若者には負けないぞという意気込みがあるようです。そのためか、院内の行事や忘年会の余興では、何んでも拒まず積極的に参加してくれるので、いつも場が盛りあがります。

当院は、昨年で15周年を迎えました。

「メスをすべてた外科医」は、老人医療に関する夢を一歩ずつ現実のものにしております。老人とかかわるようになってからの先生は柔らかく、親しみを感じるようになります。

これからも老人医療に積極的に取り組み、ますます発展するようスタッフ一同望んでおります。



右より3番目のおじいさんが佐渡院長です。

隨 想

百 日 紅

零石町 高 橋 孝

真夏日三十八日、陸前高田の高田松原海岸に海水浴客六十万人と例年の三倍、水による犠牲者も二倍と今年の猛暑は記録をぬりかえた。米も豊作のようだし、女性は黒々と身体を焼いてハットクレーブスの心配をよそに美を競っている。ヒマワリも首が疲れている(実際は花は回らないようだが)ことでしょう。

零石の街角に野菜を売る無人販売所が所々にあるが、今まで見かけなかった花の無人販売所がお盆が過ぎてから見られる様になった。これは猛暑で特に菊の花の蕾が開かず、お盆に市場にだすことが出来なくて収入減で大打撃だったためと、花作り農家の人人が言っている。菊は夜と昼の温度に寒暖の差がないと、いつまでも蕾のままでいると言います。

身じかにいる人も寒暖の差を与えるなければよかったです。庭にツツジ、皐月の花が終り、何か赤いちらちら見える花が欲しいと思いつくスモスを二、三本植えたが花びらが細く、小さい。この花もキク科で暑さに負けて今年は秋桜の面影がない。コスモスは岩手は非常に縁がある。コスモスはメキシコ原産で明治十二年に日本に上陸したが、サンセットを作り出した。この花が世界的にも権威のあるアメリカの新品種コンテストであるオール・アメリカン・セレクションで金賞を獲得した。この人は盛岡市の橋本昌幸と言う人とのことです。各地で大群生にして観光名所としている所があるが、零石でも「イーハトーブ花の郷」と名付けたペンションもあります。

一方この猛暑で元気の良いのはハギ科の百日紅(さるすべり)だ。昨年の冷夏で花を付

けなかったが今年は赤々と燃えるように花をつけている。中国原産で名前のとうり木の幹がスペースして猿もすべることからつけられているが、つるつるした木肌をなでさするとすぐったくて身震いし、梢の葉や花が笑うかの様に動くから「コソグリノ木」の名も付いたと言うが、赤茶けた木肌のつるつるした幹を見ると誰でもなでてみたくなる木である。

百日紅と言う名は韓国の悲恋物語に由来すると本にあるので、方々韓国の方に聞いてみても解らず、仙台に韓国の文部省から駐在しているイー先生を紹介されて聞いてみたが、悲恋物語については御存じなかったが、先生が幼い頃母は「稻の苗を植えてから百日すると稻にも花が咲き、その頃百日紅が咲く」と話をしていたこと。又日本でも寺院に百日紅が多い様に、韓国でも祠の回りに多く植えてあることを教えられた。百日紅の名は恐らく百日も長い間花が咲き誇ることから名付けられたと思うが、白い花もあるのに百日紅ではある。

今年の暑さは花にも色々のかかわりがあった。この猛暑の間上り詰めに詰まった水蒸気が何時何処に行くのやら怖い気もする。

岩手郡医師会役員会

日 時：平成 6 年 7 月 23 日(土)P.M. 4 : 00～

場 所：県医師会館 3 F 和室

出席者：高橋牧、高橋孝、西島、上田、坂井、
及川、佐々木、根本、岡本、上原、
篠村、嶋、八角、佐藤、高橋克

議 題：

1. 岩手郡医師会定款について

2. 報告・連絡事項

- 1) 県医師会野球大会参加について 遠野市にて開催、8月28日(日)、前日市内宿泊予定
- 2) 県医師会ゴルフ大会参加について 栗駒ゴルフ俱楽部にて、9月11日(日)、担当 北上医師会

編 集 後 記

●今年の夏は、各地で史上最高の猛暑といわれ、毎日、新聞、テレビ等で気温が報道されるたびに、四国高松の水ガメといわれるダムを初めとして、各地のダムの貯水量が少なく、渴水による給水制限が全国的に見られた。

幸い岩手県には及ばなかったが、昨年の冷夏による米作の不作に対し、今年は猛暑による野菜類の水不足による枯れる被害が出て、野菜の高騰がみられ、暑さによる影響が多方面に及んでいるようだ。

●この猛暑の中、8月28日には遠野市医師会の担当で、県医師会の野球大会が21チームの参加により行われ、また9月11日には北上医師会の担当で栗駒ゴルフ俱楽部において、県内よりゴルフ愛好者約160名が参加してゴルフ大会が行われた。

野球の方では、猛暑の中、一回戦突破を果たし、二回戦では宿敵釜石に再び敗れただけども、新人、ベテランも参加者全員出場し健斗した。

次回紫波大会に再び旋風をと意気盛んなところである。

この模様は、三善先生の県医師会野球大会観戦記として、また写真撮影は佐藤(郁)先生にお願いしました。

一方ゴルフ大会は、年代別に別れて、雄大な松林でセパレートされた、戦略性に富んだコースレイアウトの栗駒ゴルフ俱楽部において果敢に挑戦した結果を坂井先生にレポートしていただきました。

各先生方どうもありがとうございます。

次回のゴルフ大会は、二戸、久慈両医師会と共に岩手郡医師会も共同担当で、軽米町軽

米ライベックスC.Cにおいて、平成7年9月10日を予定していますと、二戸医師会長千葉茂先生が次期開催地挨拶の中で述べておりました。たくさんの参加を切望します。

このように県医師会のイベントが今号の中心です。

●敬老の日には、郡医師会ゴルフ同好の集いが南部富士C.Cにおいて行われ、雨の中会員14名が参加し、坂井先生が優勝されました。郡内会員の中には、まだまだ初心者だけれどもゴルフクラブをもっているという人は多数いると思いますので、次回以降できるだけ多くの方々の参加を希望します。一日芝生の上を、或は高原の森林浴をしながら歩いてみてはいかがでしょうか。

●「おらほの先生」には岩手町佐渡医院に登場していただきました。職員から見た先生の素顔を垣間みるようです。

●高橋孝先生の「百日紅」は時節柄の紅のきれいな花を咲かせる、子供の頃、確かにお寺の境内などでよく見かけた花であったことを思い出します。

●10月1日より診療報酬の改定がある。今回の改定は、平成6年の医科引き上げ分5.2%のうちの1.7%分であり、入院時食事療養費、新看護体系及び新看護補助体系の創設、付添看護の解消と特別介護料及び特別看護料、在宅医療の推進、基準給食の見直しと食事の質の向上などが柱になっている。

(M. S記)